



## 大切にしたいこと

保育長 原 美砂

今年度は小学校体育館とこどもの森ホールで、感染症対策をとりながら、無事に運動会を開催することが出来ました。保護者の方にはいろいろご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

学年ごとに別々の開催になりましたが、保育園の子どもたちは幼稚園の子どもたちの練習を見学してもらいました。その時の一場面です。年長組のバルーンの演技の様子を見ていた2歳児組の子どもたち。バルーンがフワッと丸い形になると「わぁ」と歓声が上がりました。「おうちみたい」「あそこに入りたい」「すごい」と目を輝かせて見ていました。本当に2クラスの年長児の大きな2つのバルーンが織りなす風景は圧巻なのです。気持ちが動いた様子が伝わってきました。大きい組の子どもたちが頑張っている様子を見て憧れる気持ちをもつことは、子どもの育ちの中で大切にしたいことです。運動会が終わった後には、4歳児組の子どもたちが音楽に合わせて小さめの丸い布を数人で持ってバルーンごっこを楽しんでいる姿も見られました。コロナ禍になり、他学年との交流は以前のようにはできませんが、今後も異年齢交流での育ちを大切にしていきたいと思えます。

今年度は「人とかかわる力を育てるために～遊びの姿を通して～」というテーマで職員の園内研究を進めています。9月末には、研究を深めるために講師の先生をお招きし、ご助言をいただきました。今回は1・2・3歳児組の様子を先生に見ていただき、保育の振り返りをしました。「人とかかわる力」という視点を絞って見ることで子どもたちの姿がより鮮明に見えてきました。

1歳児の姿の中に友達のやっていることを真似する姿があります。時には戸をドンドンとたたいたり大人がやってほしくないことを真似て嬉しそうにする姿があります。この様子はこの年齢の子どもたちにとって言葉を越えたコミュニケーションであり、相手を意識し、動きで共鳴している姿であるとのこと。ここから少しずつ周りに同調しすぎない自分に育っていくとのこと。やっちはいけないことは伝えながらも、「育ちの過程」と視点を変えることで、余裕をもって子どもたちを見守ることが出来ますね。

そしてお話の中で印象に残ったのは、大人や友達に助けられたことが心に残り、その姿が子どもたちのモデルになるということです。大人に支えてもらったことは子どもたちの心の育ちにつながっていきます。「子どもの心を育てる視点」をもって子どもたちに関わっていこうと改めて感じたところです。今後も保護者の方と共に子どもたちの育ちを支えていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。